

政務活動費収支報告明細書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 1	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	令和元年7月30日から令和元年7月31日まで			
	研究研修名・場所等	第15回 健康都市連合日本支部大会			
		サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2-1)			
	参加者	6人			
(氏名等) 成瀬のりやす、日比野和雄、陣矢幸司、谷口武司、秋田さとし、安田吉宏					
経費	研究研修費	189,792円	調査旅費	円	
実績報告書 No. 2	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	令和元年8月7日から令和元年8月8日まで			
	研究研修名・場所等	第19回 地方から考える社会保障フォーラム			
		東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3階			
	参加者	1人			
(氏名等) さかえ章演					
経費	研究研修費	46,940円	調査旅費	円	
実績報告書 No. 3	項目	研究研修費 調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	令和元年10月3日から令和元年10月4日まで			
	研究研修名・場所等	神奈川県鎌倉市「自転車の安全利用を促進する条例について」			
		神奈川県座間市「立野台コミュニティセンターについて」			
		神奈川県座間市「断らない相談について」			
参加者	3人				
	(氏名等) 若杉たかし、日比野和雄、陣矢幸司				
経費	研究研修費	円	調査旅費	96,720円	
実績報告書 No. 4	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	令和元年10月30日から令和元年10月31日まで			
	研究研修名・場所等	第14回 全国市議会議長会研究フォーラムin高知			
		高知県高知市布師田3992-2(高知ちばさんセンター内)			
	参加者	2人			
(氏名等) 武田なおき、松原たかし					
経費	研究研修費	104,790円	調査旅費	円	

項目別合計 (最終ページに記載)	研究研修費	円	調査旅費	円
---------------------	-------	---	------	---

政務活動費収支報告明細書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 5	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
	期間	令和元年11月6日から令和元年11月8日まで		
	研究研修名・場所等	第81回 全国都市問題会議		
		霧島市国分体育館(鹿児島県霧島市国分清水309) ※会議当日、7日9時30分開会のため前泊しております。		
	参加者	10人 (氏名等) 若杉たかし、武田なおき、成瀬のりやす、松原たかし、さかえ章演 日比野和雄、陣矢幸司、谷口武司、秋田さとし、安田吉宏		
経費		研究研修費	739,820円	調査旅費 円
実績報告書 No. 6	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
	期間	令和元年11月8日から令和元年11月8日まで		
	研究研修名・場所等	南九州市ふるさと納税事業について		
		南九州市役所(鹿児島県南九州市知覧町郡6204)		
	参加者	10人 (氏名等) 若杉たかし、武田なおき、成瀬のりやす、松原たかし、さかえ章演 日比野和雄、陣矢幸司、谷口武司、秋田さとし、安田吉宏		
経費		研究研修費	円	調査旅費 2,240円
実績報告書 No. 7	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
	期間	令和2年1月31日から令和2年1月31日まで		
	研究研修名・場所等	立地適正化計画と公共施設等総合管理計画について		
		大阪府大阪市東淀川区中島1-18-22 新大阪丸ビル別館5階		
	参加者	4人 (氏名等) 陣矢幸司、谷口武司、秋田さとし、安田吉宏		
経費		研究研修費	119,250円	調査旅費 円
実績報告書 No.	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
	期間	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
	研究研修名・場所等			
	参加者	人 (氏名等)		
		経費	研究研修費	円

項目別合計 (最終ページに記載)	研究研修費	1,200,592円	調査旅費	98,960円
---------------------	-------	------------	------	---------

政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 1

項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
期間	令和元年7月30日 から 7月31日まで		
研究研修名・場所等	第15回健康都市連合日本支部大会 サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2-1)		
参加者	6人 (氏名等) 成瀬のりやす、日比野和雄、陣矢幸司、谷口武司、秋田さとし、安田吉宏		
研究研修・調査の項目			
7月30日			
・基調講演「住民の暮らしを支える町の機能—大震災復興で考えたこと」内閣官房参与岡本全勝氏			
・パネルディスカッション「SDGsと元気な健康都市づくり」パネリスト:内閣官房参与岡本全勝氏外3名			
・加盟都市活動発表「市の総合計画に健康都市プログラムを設定!!~「健康」応援都市の実現に向けた取り組みの加速化~」東京都西東京市			
・加盟都市活動発表「日本一健康文化都市ふくろい~市民が「ともに進める」健康寿命の延伸~」静岡県袋井市			
7月31日			
・講演「健康づくりは幸せづくり~食と運動~」元NHK健康情報番組「きょうの健康」司会久田直子氏			
・開催市活動発表「ウォーキングによる健康づくり」香川県高松市			
・開催市・市民団体活動発表「食習慣を見直し、健康な身体をつくろう」高松市食生活改善推進協議会			
・開催市・市民団体活動発表「地域のみみんなに元気を広げていくために」元気を広げる人			
・加盟都市活動発表「泉佐野市健康都市推進ビジョン~生涯を通じた健康づくりの推進~」大阪府泉佐野市			
	摘要	金額	備考
経 費 内 訳	会場使用料	円	
	講師料	円	
	交通費(公共交通機関)	148,320 円	報告書 別紙1 参照
	交通費(タクシー)	円	
	交通費(レンタカー等)	円	
	道路通行料等	円	
	宿泊費	41,472 円	報告書 別紙1 参照
	会費(出席者負担金)	円	
	計	189,792 円	

実績報告書及び今後の活用計画

日 時 令和元年7月30日(火)、31日(水)

場 所 サンポートホール高松

研究内容 7月30日

- ・基調講演「住民の暮らしを支える町の機能—大震災復興で考えたこと」
- ・パネルディスカッション「SDGsと元気な健康都市づくり」
- ・加盟都市活動発表
「市の総合計画に健康都市プログラムを設定！！
～「健康」応援都市の実現に向けた取り組みの加速化～」
- ・加盟都市活動発表
「日本一健康文化都市ふくろい～市民が「ともに進める」健康寿命の延伸～」

7月31日

- ・講演「健康づくりは幸せづくり～食と運動～」
- ・開催市活動発表「ウォーキングによる健康づくり」
- ・開催市・市民団体活動発表「食習慣を見直し、健康な身体をつくろう」
- ・開催市・市民団体活動発表「地域みんなに元気を広げていくために」
- ・加盟都市活動発表
「泉佐野市健康都市推進ビジョン～生涯を通じた健康づくりの推進～」

第15回健康都市連合日本支部大会(以後本大会)が令和元年7月30日及び31日に香川県高松市において開催され、全国から加盟42都市と3団体が集結し、講演や活動発表が行われた。フロンティア旭から6名参加し、各健康都市の課題や問題点等を共有する大会となった。

尾張旭市(以後本市)は平成16年6月にWHO西太平洋地域健康都市連合に加盟し、同年8月に「健康都市宣言」を行っている。また翌年4月に、健康都市連合日本支部の発起人メンバーとなっている。健康都市として先導役となっている本市が「健康都市」として成長するため、さらに調査研究が不可欠である。

・基調講演「住民の暮らしを支える町の機能—大震災復興で考えたこと」
内閣官房参与、福島復興再生総局事務局長 岡本 全勝 氏

内容

東日本大震災の「復興」において、当初「復興」とはインフラと公共設備、住宅を再構築することであると施策を進めてきた。しかし、それは「復旧」であり「復興」ではなかった。地域コミュニティが壊れ、知人や友人とのつながりを失った人の集まった町には孤独と孤立があふれていた。真の「復興」するためには、新たなコミュニティの構築が必要不可欠である。

今後の活用計画

このような経験を生かし、住民が健康に日々暮らしていくためには、地域コミュニティが崩壊しないような防災・減災計画が求められる。

・パネルディスカッション「SDGsと元気な健康都市づくり」

パネリスト:内閣官房参与、福島復興再生総局事務局長 岡本 全勝 氏
健康都市連合事務局長、東京医科歯科大学大学院教授 中村 桂子 氏
高松市長 大西 秀人 氏
高松市保健委員会連絡協議会会長 喜田 清美 氏
コーディネーター:香川大学医学部公衆衛生学教授 平尾 智広 氏
高松市健康福祉局副参事 藤川 愛 氏

内容

WHOによりヘルスプロモーションがSDGs(持続可能な開発目標)の中核に位置付けられた今、それを実施していくのが健康都市であり、都市計画に組み込んでいくことが必要である。健康に価値を置くことにより、健康のみならず他の分野にもさまざまな波及効果をもたらし、「誰一人取り残さない社会」を実現することができる。

今後の活用計画

本市においても、健康都市として、SDGsの「3.すべての人に健康と福祉を」及び「11.住み続けられるまちづくりを」を基調に元気な健康都市づくりを展開していくべきである。

・加盟都市活動発表「市の総合計画に健康都市プログラムを設定！！

～「健康」応援都市の実現に向けた取り組みの加速化～

東京都西東京市

内容

西東京市では、元気なシニアたちをフレイルサポーターとして養成し、市民のフレイルチェックを行うことにより、お互いに健康に対する意識を高めている。

今後の活用計画

本市においては、すでにフレイルに対する知識はシニアクラブを中心に広がりを見せている。今後は、フレイル予防をキーワードに新たな地域づくりを進める手段の一部として活用することが考えられる。

・加盟都市活動発表「日本一健康文化都市ふくろい～市民が「ともに進める」健康寿命の延伸～」

静岡県袋井市

内容

袋井市では健康ポイント事業(健康マイレージ制度)をスマホアプリとしてリニューアルした。これまでの自ら目標を立て、自らその達成状況を登録する制度から、誰でも、いつでもどこでも取組易く、取組結果が分かりやすくなった。平成31年3月現在、人口の約3、5%の3,000人が登録している。利用のしやすさ、分かりやすさなどから登録会員は伸びており、事業所・企業等の健康ツールとしても活用されている。

今後の活用計画

本市においては、あさびー健康マイスター手帳が配布されているが、スマホアプリを導入することにより、市民の健康への意識が高まるのであればスマホアプリの導入を検討すべきである。

・講演「健康づくりは幸せづくり～食と運動～」
元NHK健康情報番組「きょうの健康」司会 久田 直子 氏

内容

100歳まで健康で生きなければならない。そのためには、若い時から自分の健康を守るためのセルフメンテナンスが大切である。自分に必要な健康情報を知っているかどうかでその人の健康に大きな差が出ることを「今日の健康」で学んだことをもとに講演した。それは食事と運動に尽きると明言した。

・開催市活動発表「ウォーキングによる健康づくり」
香川県高松市
・開催市・市民団体活動発表「食習慣を見直し、健康な身体をつくろう」
高松市食生活改善推進協議会
・開催市・市民団体活動発表「地域みんなに元気を広げていくために」
元気を広げる人

内容

近隣地区との交流を図り、協力、連携を進めていけるよう市内41地区を5ブロックに分けて活動している。ブロックごとにそれぞれのウォーキングマップを作成したり、地域の特性に合わせた食育活動を実施している。また、地域保健委員会より推薦を受けた人が、養成講座をうけて「元気を広げる人」の名称を取得する。高松市長の証明書が発行される。「元気を広げる人」が地域で主体となり、高齢者の健康づくりをボランティアで行っている。

今後の活用計画

本市としても、健康づくりのための基礎や高齢者への接し方、レクリエーションや運動方法について講義や実技を学ぶ講座を開催したり、これらの事の周知を図る方法を考えていかねばならない。

・加盟都市活動発表「泉佐野市健康都市推進ビジョン～生涯を通じた健康づくりの推進～」
大阪府泉佐野市

内容

平成28年3月に健康都市宣言をした。「まだまだ健康都市として未熟ですが、来年開催がんばります。」と氣勢を張っていた。

第15回健康都市連合日本支部総会・大会行程表

報告書 別紙1

■7月30日(火)会場:サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2-1)

時間		移動手段	金額		所要時間	備考
8:00	発	尾張旭駅				尾張旭～大曾根
		↓	名鉄瀬戸線 (栄町行)	300円	移動	18分
8:18	着				乗換	12分 大曾根～高松
8:30	発	大曾根駅				
		↓	JR中央本線 (名古屋行)		移動	15分
8:45	着				乗換	11分
8:56	発	名古屋駅	乗車券			
		↓	JR新幹線のぞみ155号 (博多行)	11,870円	移動	1時間 38分
10:34	着				乗換	19分
10:53	発	岡山				
		↓	JR快速マリンライナー23号 (高松行)		移動	56分
11:49	着				乗換	0.秒
11:49	発	高松				
		↓	徒歩(8分)		移動	18分
12:07	着				昼食	0:50
12:07	発	サンポートホール高松	(昼食)		滞在	7時間 53分
		第15回健康都市日本 支部大会(1日目)	大会・懇親会 13:00～20:00			
20:00	発	サンポートホール高松				
		↓	徒歩(8分)		移動	15分
20:15	着				乗換	0.秒 高松築港～片原町
20:15	発	高松築港		190円		
		↓	高松琴平電気鉄道琴平線 (滝宮行)		移動	2分
20:17	着				乗換	0.秒
20:17	発	片原町				
		↓	徒歩(8分)		移動	8分
20:25	着	オークラホテル高松	(宿泊先)			
			運賃計①	12,360円		

宿泊先 オークラホテル高松(高松市城東町1丁目9-5 087-821-2222)

費用総額(交通費①+②)			
議員(1名)	24,720円	×6名=	148,320円
合計(1名)			148,320円

■7月31日(水)会場: サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2-1)

時間			移動手段	金額		所要時間	備考
8:25	発	宿泊地					
		↓	徒歩(8分)				
8:35	着				移動	10分	
8:47	発	片原町駅			乗換	12分	片原町~高松築港
		↓	高松琴平電気鉄道琴平線 (高松築港行)	190円			
8:50	着				移動	3分	
8:50	発	高松築港			乗換	0.秒	
		↓	徒歩(6分)				
8:56	着	サンポートホール高松			移動	6分	
10:00	開始	第15回健康都市日本 支部大会(2日目)	大会		滞在	3時間 50分	
12:00	終了		10:00~12:00				
13:50	発	サンポートホール高松	(昼食)		昼食	1:00	
		↓	徒歩(6分)				
14:00	着				移動	10分	
14:40	発	高松駅			乗換		高松~大曽根
		↓	JR快速マリンライナー40号 (岡山行)		移動	52分	
15:32	着				乗換	11分	
15:43	発	岡山駅		乗車券			
		↓	JR新幹線のぞみ176号 (東京行)	11,870円			
17:22	着				移動	1時間 39分	
17:34	発	名古屋駅			乗換	12分	
		↓	JR中央本線 (多治見行)		移動	12分	
17:46	着				乗換	15分	大曽根~尾張旭
18:01	発	大曽根駅					
		↓	名鉄瀬戸線 (準急 尾張瀬戸行)	300円			
18:16	着	尾張旭駅			移動	15分	
			運賃計②	12,360円			

報告書 別紙1

フロンティア旭

適用	適用日	明細	備考	単価(円)	数量	合計(円)
交通費(公共交通機関)						
	7月30日	尾張旭 大曾根	名鉄	300	6	1,800
	7月30日	大曾根 高松	JR	11,870	6	71,220
	7月30日	高松築港 片原町	琴電	190	6	1,140
	7月31日	片原町 高松築港	琴電	190	6	1,140
	7月31日	高松 大曾根	JR	11,870	6	71,220
	7月31日	大曾根 尾張旭	名鉄	300	6	1,800
合計						148,320
宿泊費						
	7月30日	オークラホテル高松	1泊	6,912	6	41,472
合計						41,472
総合計						189,792

請求書(控)

発行日 2019年07月17日

予約番号 TJ-580162

請求番号 TJ-00008671

名鉄観光バス株式会社

春日井支店

〒486-0841

愛知県春日井市南下原町1-10-6

フロンティア旭 様

TEL: 0568-83-7111 FAX: 0568-84-9423

ご請求額 ¥195,672.-

毎度お引立ていただきありがとうございます。
下記の通りご請求申し上げます。

内容 研修旅行代

¥194,916
¥756 (振込手数料)

責任者	担当者

利用日	内容	単位	単価	数量	金額
19/07/30	名古屋市内ー岡山: 新幹線回数券		62,160	1	62,160
	岡山ー高松: 普通乗車券		1,510	6	9,060
	岡山ー高松: 普通グリーン券		980	6	5,880
	オークラホテル高松宿泊代・シングル朝食付		6,912	6	41,472
19/07/31	高松ー岡山: 普通乗車券		1,510	6	9,060
	高松ー岡山: 普通グリーン券		980	6	5,880
	岡山ー名古屋市内: 新幹線回数券		62,160	1	62,160

別紙①行程表にある
JR新幹線のおき代金 11,870円 の根拠。
請求額 195,672 - 振込手数料 756 = 振込額 194,916
↓
195,672円 - 宿泊代 41,472円 = 154,200円
154,200円 - 研修者郵賃 5,880円 × 2 (往復) = 142,440円
対象外グリーン券
142,440円 ÷ 2 (往復) = 71,220円 (6人往復)
71,220円 ÷ 6 (人) = 11,870円

お振り込みは、下記口座へ2019年08月30日までをお願いします。

合計	(A)	195,672
ご入金済額	(B)	0
今回請求額	(A)-(B)	195,672

振込先
三菱UFJ銀行 (0005)
すずかぜ支店 (862)
普通 1434300
名鉄観光バス株式会社

備考

領収書等貼付用紙

贈金払戻請求書・贈金口座振替による振込受付書(兼手数料受取書)

1年9月5日

〒1949115

振込先 三振UFJ	口座番号 1434300
お名前 三井物産株式会社様	お名前 三井物産株式会社様
お住所 〒488-0077 愛知県豊田市長瀬	お住所 〒488-0077 愛知県豊田市長瀬
お電話番号 0561-56-7652	お電話番号 0561-56-7652
お取引先 三井物産株式会社	お取引先 三井物産株式会社
お振込元 尾張旭支店	お振込元 尾張旭支店

起算日 月 日	指定日 月 日
手数料 1: 加納 2: 後納 9: 不要	手数料 1: 加納 2: 後納 9: 不要
手数料 19756	手数料 19756

- 振込先金融機関へは、お受取人名のほが貯金種目・口座番号を通知します。お受取人名はカナ文字により送信します。
- 振込依頼書に記載相違等の不備があった場合には、照会等のため振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- 通信機器、回線の障害等やむを得ない事由によって振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- ご指定の口座から貯金を払い戻して振り込む場合、その払戻しが必要となりますので、ご依頼人が事前に保管してください。
- この振込受付書(兼手数料受取書)は、振込ができない場合などに必要となりますので、ご依頼人が大切に保管してください。
- 振込ができない場合は、この手数料のほか、別途手数料がかかる場合がありますのでご了承ください。

取扱店

あいち尾東農業協同組合
尾張旭支店
〒0561) 54-3911

旅行業者担当様へ
お預け託金を
お戻し下さい。
本番を提出した際

7月11日
三井物産株式会社様へ
お振込の旨を
お伝えし、
お振込の
お手続き
をお願いいたします。

JANING

48805号ZJS-KW0111 23 3018.11 3019.01 +

② 画面印刷

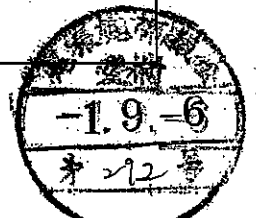
③ A4用紙以上のものは、その用紙に貼ってください。

政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 2

項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
期間	R元年 8 月 7 日 から 8 月 8 日まで		
研究研修名	第19回 地方から考える社会保障フォーラム		
場所等	東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3F		
参加者	1人 (氏名等) さかえ章演		
研究研修・調査の項目			
8/7 ①少子高齢社会における訪問看護の役割 (全国訪問ボランティアナースの会代表 菅原由美氏)			
②空き家対策-都市の事情、地方の事情 (国土交通省住宅局住宅総合調整課長 深井敦夫氏)			
③ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授 唐澤 剛氏)			
8/8 ①児童虐待-児童福祉法の改正で地方自治体がやるべきこと (厚生労働省家庭福祉課長 成松英範氏)			
②認知症対策-その最新情報 (厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長 岡野規倫氏)			
	摘要	金額	備考
経 費 内 訳	会場使用料	円	
	講師料	円	
	交通費(公共交通機関)	940 円	尾張旭⇄大曾根(往復)300×2→600円
		円	東京メトロ日比谷⇄虎ノ門(往復)170×2→340円
	宿泊費	19,000 円	19,000(交通費/名古屋⇄東京とホテル代含む)
		円	→(株)ジェイアール東海ツアーズの「50+」は、ホテル
		円	と交通費がセット料金で安価だった。ホテルは
		円	指定のため研修地から一番近いものを選んだ。
	会費(出席者負担金)	27,000 円	27,000円
	計	46,940 円	



内容

1日目

【講義 1】 13:00~14:00 「少子高齢化社会における訪問看護の役割」
菅原由美 全国訪問ボランティアナースの会代表

○全国訪問ボランティアナースの会

菅原由美氏は、地域に根差した活動をモットーに、デキル (Can) ことを、デキル範囲で行うナース (Nurse) の会—「キャンナス (Cannus) の会」を、2011年3月に東日本大震災の災害ボランティアとして立ち上げ、広島土砂災害、熊本地震、西日本豪雨災害の被災地や全国127箇所地域に根差した活動をしている。

○活動内容

訪問看護介護、コミュニティカフェ、笑いヨガ、まちの保健室、栄養相談、健康体操、臨床美術、認知症カフェ、寺子屋、子ども夏合宿、講演会など様々なボランティア活動をしている。特に被災地の避難所等で、そこにナースがいるだけで安心感を感じていただけるナースボランティアの会を目指している。

○在宅医療体制の構築に向けて

以上のようなボランティア活動を地域の1つの柱にしながら、もう一つの柱は本業の訪問看護活動だ。しかし、大きな問題は訪問看護ステーションの開業には2.5人(3人)の看護師が必要要件。そのため労務管理経費が負担になり、全国では年1600箇所開業うち600箇所が廃業しているのが現状。一人でも開業が緩和されれば、日本中に星降るほどの訪問看護ステーションができ、超少子高齢社会での需要が急増する在宅医療看護の対応が可能になる。

以上が講演の要旨だった。

○今後の活動計画

団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題、また85歳になる2035年問題は、まさに在宅医療に医師も看護師も介護士等もとても対応できず、姥捨て山状態になる可能性を意味している。その解決策には、今回の菅原由美講師の1人の訪問介護ステーションの開業緩和は必須だと感じた。是非とも当市で、看護師1人でも開業できるよう県にも働きかけ緩和特区の申請を提案したい。

【講義 2】 14:40~15:40 「空き家対策-都市の事情、地方の事情」
深井 敦夫氏 国土交通省住宅局住宅総合調整課長

○現状

空き家の総数はこの20年で1.5倍増。賃貸用・売却用を除いた「その他の住宅」は347

万戸で1.9倍に増加している。その内で一戸建て（木造住宅）は239万戸で、空き家率は全国平均5.6%。今後の更なる増加傾向が続く中、家屋の倒壊、崩壊、火災、犯罪誘発などの防災防犯問題やごみの不法投棄、衛生の悪化、悪臭の発生、景観などの問題で周辺への悪影響が懸念される。

○空き家対策の法的整備

そのため、空き家問題対策で様々な法的整備がなされ、空き家活用、跡地利用策や特定空き家の除去修繕等の助言、勧告、命令、行政代執行の制度や国や地方公共団体への補助や地方交付制度の拡充等や税制上の特例などの措置等が行われている。等々の内容が説明され、最後に全国の空き家対策の先進事例も紹介された。

今後の活動計画

当市の空き家率は、その他の住宅で3.8%と近隣市と比べて平均水準だが、ベッタウン地域の当市は将来的には超少子高齢化が加速し、空き家をもたらす様々な問題の対処が求められる。

そのために、既存市街地を中心に様々な生活支援サービスが集約したコンパクトシティのまちづくりや、人口減少に伴う”空き家の発生”への対応として、既存住宅の流通を高め、生活環境の質を高めていく施策始め、様々な空き家の幅広い対策を研究し、市に提案していきたい。

【講義3】 16:20~17:20 「ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会」
唐澤 剛氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授

○2035年問題

団塊の世代が75歳になる「2025年問題」が騒がれたが、今は2035年問題。団塊の世代が85歳になる頃に入院患者と要介護者が急増する。特に大都市では高齢者人口が爆発し2040年には75歳以上の高齢者人口が倍になる。医者や看護師介護士などの専門職の対応人材の不足で、医療難民・介護難民問題が深刻。これに加えて2035年は団塊ジュニアが退職年齢を迎え、大人材不足時代が到来する。

○超少子高齢化問題の克服策は「地域包括ケア」

このような超少子高齢社会を乗り切る方法は、地域包括ケア以外にない。（表題のごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会）というのが要旨。

ごちゃまぜとは、多様性（いろいろな物や人）×交流（かきまぜる）。この2つが合わさって障がいがある人も高齢者も子どもも若者も自然で楽しくイノベーションを産む社会のこと。

地域包括ケアには縦軸と横軸があって、縦軸の「医療介護連携」（地域における総合的なチーム医療介護）と横軸の「生活支援とまちづくり」（生活支援は見守り、買い物支援、通院の付き添い等）の連携が不可欠だ。

具体的には、地域包括ケアは、それぞれの人の物語を尊重しながら、生活する自宅（在宅）を中心に、医療介護・生活支援などの各種サービスが包括的に提供されること。

例えば、医療では、AI や ICT の活用で、病院ではなく自宅が診療やサービスの場になり、在宅医療が主流になる。オンライン診療も日常的になる。

今後の活動計画

超少子高齢社会をどう乗り越えるのか？特に当市のような大都市近郊のベッドタウン地域では最大の政治課題だ。ベッドタウンがゴーストタウンにならないように、早急な対応策が必要だ。

今回の講演内容でも、地域包括ケアの充実が問題解決のカギというのが結論だ。特に医療難民と介護難民の課題解決が迫られている。フロンティア旭でも地域包括ケアの全国モデルを目指して様々な提案をしている。

特に、少子高齢化問題の解決を図るため、旭労災病院に隣接した広大な平子町北地内市有地を有効活用して、在宅医療介護体制と日常生活支援体制の構築、子育て支援、生きがいや仕事の間、生涯学習拠点づくりを柱に、「地域包括ケアが充実した多世代共生のまちづくり」を目指した事業提案をしている。

今回の講義は、まさに当会派が目指しているまちづくりそのものだと感じ大変参考になった。

今後も事業内容を更に研究し、進化発展させながら、具体的な事業化の提案をしてきたい。

2 日目

【講義 1】 10:00~11:00 「児童虐待-児童福祉法の改正で地方自治体がやるべきこと」
成松 英範氏 厚生労働省家庭福祉課長

○現状等

平成 30 年の児童相談所の児童虐待相談件数は、平成 11 年と比べ 13.7 倍の 159,850 人。心理的虐待 55.3%、身体的虐待 25.2%。相談経路は警察 50%、近隣知人 13%、家族 7%、学校等 7%である。

また、虐待による死亡事例の検証で、0 歳児の割合は 47.9%。3 歳児以下は 77.1%。加害者の割合は、実母が 55.1%と最も多い。妊娠期・周産期の問題では、予期しない妊娠や妊婦健康診査未受診などが 25%強。家庭における地域社会との接触がほとんどない事例は 39.1%だ。

○課題とこれまでの対応策

- 1 児童虐待の発生予防・早期発見に関わる対応策→ 子育て世代包括支援センターの全国展開、乳幼児健診未受診者、未就園児等の緊急把握の実施、窓口相談の周知啓発等。
- 2 児童虐待発生時の迅速・的確な対応→ 児童相談所の体制強化、市町村における相談体制の強化

3 被虐待児への自立支援→ 家庭への復帰支援、家庭養育の推進、自立支援
など主に3点の事業を推進しながら、2022年までの数値目標を設定しながら、一層の充実に取り組むとしている。

○今回の児童福祉法の改正

- 1 体罰禁止規定の創設やDV対策との連携強化規定の創設
- 2 常時弁護士による指導助言のもとで対応するための既定の拡充と医師及び保健師の配置義務規定の創設や児童相談所の設置促進のための既定の創設等が盛り込まれた。
という内容の説明があった。

○地方自治体がやるべきこと

市町村は、

リスクの低い段階では、「子育て世代包括支援センター」で、妊娠期から子育て期にわたる総合的相談や支援を実施し、

リスクが中程度の段階では、「市町村家庭総合支援拠点」で、

- 1 子ども家庭支援全般に係わる業務
- 2 要支援児童及び要保護児童等への支援業務
- 3 関係機関との連絡調整（要保護児童対策調整機関）
- 4 その他（一時保護又は措置解除後の児童の安定生活継続支援）

等の充実強化が求められる。リスクが高い段階を扱う都道府県の児童相談所（一時保護所）と役割分担連携を図りつつ、常に協働して支援実施することが重要との説明があった。

今後の活動計画

当市は、妊娠期から子育てまで、切れ目のない支援を行うため、「あさびー子育てコンシェルジュ」を中心に、保健センターを拠点に母親や子どもの生活スタイルにあった様々な「子育て世代包括支援事業」を行っており、大変評価している。

しかし、「市町村家庭総合支援拠点」の創設については、道半ばで早急な対応が迫られている。

今後、要支援児童や要保護児童等の支援業務（危機判断と対応、調査、アセスメント、支援計画作成、支援指導等）の需要が増してくるため、当市に必要な、常時3人の規定人数（虐待対応相談員1人や子ども家庭支援員2人）の確保にむけ、市に要望していきたい。

【講義2】 12:30~13:30 「認知症対策-その最新情報」

岡野 規倫氏 厚生労働省老健局 総務課 認知症施策推進室長

○現状

2012年の認知症高齢者は462万人。2025年は700万人と推定される。

また、年齢別の認知症有病率75-79歳では10.4%、80-84歳ではその倍以上の22.4%、更に85-89歳ではまたその倍の40.3%だ。

2035年問題、即ち団塊の世代が85歳以上になる以降が認知症患者の急増が危機的状態だということだ。

○これまでの取組

政府は、2015年に関係省庁12省庁で新オレンジプランを作成した。2027年には新オレンジプランの基本的な考え方として、①認知症に対する知識の普及・啓発②心身の特性に応じたリハビリテーション、介護者支援等の施策の総合的な推進③認知症の人及び家族の意向の尊重が示された。

そして、令和元年6月に認知症施策推進大綱が関連閣僚会議にて決定した。

○認知症施策推進大綱

主な要旨は5点。

1 普及啓発・本人発信支援

- (1) 小売・金融・交通の職域や子どもへの認知症サポーター養成講座の拡充
- (2) 認知症本人からの発信機会拡大

2 予防

- (1) 介護予防に資する取り組みである「通いの場」の拡充や身近な場における社会参加、運動等の活動推進
- (2) 予防活動の進め方に関する手引きの作成
- (3) 予防に資する商品サービスの評価認証の仕組みの検討

3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- (1) 早期発見・早期対応のための地域包括支援センター、認知症初期手中支援チーム、認知症疾患医療センター等の質の向上、連携強化

4 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人の支援・社会参加支援

- (1) 移動手段、交通安全、住宅確保、地域での支援体制構築による認知症バリアフリー推進
- (2) 認知症当事者の意見を企業の商品・サービス開発につなげる仕組み構築
- (3) 若年性認知症支援コーディネーターの好事例の収集
- (4) 認知症の人の社会貢献や社会参加活動の促進

5 研究開発・産業促進・国際展開

- (1) 様々な病態ステージの研究開発の推進
- (2) 認知症の予防方法やケアに関する技術・サービス・危機の検証、評価指標の確立
- (3) 研究成果の産業化、介護サービスの国際展開

以上の項目の詳細な内容説明があった。

今後の活動計画

当市の認知症サポーター数は、5594人（平成29年3月末）と認知症の普及啓発活動も充実し始めており、認知症予防でも、自治会やシニアクラブなどの各種団体を中心に、らくらく貯筋体操を展開しており、参加団体も65グループ、1400人（平成31.3）と全市的な展開がなされている。

また認知症当事者等の支援策では、認知症の早期発見、早期治療では、認知症初期集中支援チームによる初期の支援を包括的集中的に行い、自立生活のサポートを展開している。また認知症カフェでは、現在3箇所開設で認知症当事者家族の支援体制が徐々に充実し始めている。

しかし、2035年問題、即ち団塊の世代が85歳以上になる以降が認知症患者の急増が危機的状态に対応するためには、専門人材や支援ボランティアも含めて、対応人材が圧倒的に不足する。

将来危機を見据えて、認知症対応策の更なる充実を市に要望していきたい。

<日程>

8月7日(水)

尾張旭駅 ——— 大曾根駅 ——— 名古屋駅 ——— 東京駅

8:04発 名鉄 8:22着 8:30発 JR中央本線 8:45着 8:57発 のぞみ214号 10:33着

研修会場(ビジョンセンター東京有楽町) — 日比谷駅 — 虎ノ門駅 —

徒歩13:00~17:50

東京メトロ

宿泊所(新橋愛宕山REIホテル)

徒歩18:30着

8月8日(木)

宿泊所 — 虎ノ門駅 — 日比谷駅 ——— 研修会場(ビジョンセンター東京有楽町)

9:00発

東京メトロ

徒歩10:00~15:00

東京駅 ——— 名古屋駅 ——— 大曾根駅 —

18:40発 のぞみ251号 20:19着 20:34発 JR中央本線 20:46着 21:01発 名鉄

尾張旭駅

21:16着

領 収 書



No. 600360-688-01-1

2019年09月10日

カエ アキコ 様

株式会社ジェイアール東海ツアーズ
旅の通販センター

TEL 03-6860-0588

発行者



下記の金額正に領収いたしました。

領収金額

¥19,000

但し、8/7~8/8旅行代金

印紙税申告納
付につき京橋
税務署承認済

ご入金内訳

現金等	19,000
-----	--------

<ご注意>

・発行者印の無いもの及び金額を訂正したものは無効です。

領収証

さかえ 章演 様

¥27,000円

但

第19回 地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー参加費として
2019年8月7日

上記正に領収いたしました

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3 児谷103F

地方から考える「社会保障フォーラム」事務局

政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No.

3

項目	研究研修費・ <u>調査旅費</u> (該当する項目を○で囲む)		
期間	令和 1 年 10 月 3 日から 10 月 4 日まで		
研究研修名	神奈川県鎌倉市「自転車の安全利用を促進する条例について」		
	神奈川県座間市「立野台コミュニティセンターについて」		
場所等	神奈川県座間市「断らない相談について」		
参加者	3 人 (氏名等) フロンティア旭 若杉たかし、日比野和雄、陣矢幸司		
研究研修・調査の項目			
神奈川県鎌倉市「自転車の安全利用を促進する条例について」			
制定に至るまでの経緯や策定スケジュールの確認などを調査研修しました。			
神奈川県座間市「立野台コミュニティセンターについて」			
施設の概要や地域の方が管理するメリット・デメリットについて調査研修しました。			
神奈川県座間市「断らない相談について」			
生活保護との連携や相談窓口の運用方法など座間市の考え方について研修を受けました。			
	適用	備考	
経 費 内 訳		別紙政務活動行程表参照	
		新幹線代金 ¥67200	
	交通費(公共交通機関)	71,820 円	名鉄瀬戸線 大曾根～尾張旭往復運賃600×3=1800円
			JR横須賀線～相模線鎌倉～海老名590×3=1770円
			小田急小田原線海老名～座間160×3=480円
			小田急小田原線座間～町田190×3=570円
	宿泊費	24,900 円	宿泊費 8300×3=24900円
	96,720 円		

《内容及び今後の活用計画は裏面記載》



内 容	日時:令和元年10月3日(木)
神奈川県鎌倉市「自転車の安全利用を促進する条例について」	
場所 鎌倉市役所、時間 10:30~12:00、講師 久坂議長・納所市議	
<p>条例の制定過程について、2期目の同期4名による勉強会をスタート(当時の講師は一般社団法人地域開発研究所主任研究員 牧瀬稔氏)。平成22年に議会全体に呼びかけ鎌倉市議会「政策法務研究会」が発足した(全7会派28名中17名が参加)。リーダーは決めずに発起人の4名が中心になってスタート。議会事務教員がオブザーバー参加。</p> <p>研究テーマとして、「観光」「子どもの権利」「商店街振興」「自転車の安全利用」があったが、「自転車の安全利用」に絞り込んだ。</p> <p>調査活動は、「自転車チーム」と「条例チーム」に分かれて行った。</p> <p>策定スケジュールとして、先進事例の視察・研究、条例案の作成、パブリックコメントの実施を経て、平成24年2月に定例会に提案をした。</p> <p>平成24年2月定例会にて、「鎌倉市自転車の安全利用を促進する条例」が議員提案による政策条例として本会議を全会一致で可決、成立した(平成24年3月22日公布)。</p> <p>条例制定後の取り組みとして、平成24年4月「鎌倉市自転車安全総合推進計画」を策定。自転車通行空間の整備、交通安全教育の充実、交通ルール・マナーの周知徹底、自転車損害賠償保険への加入促進、自転車に関する統計データの収集に取り組む。</p> <p>また、平成31年4月には神奈川県が「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を制定。鎌倉市の条例と重複する内容があり整合が課題。</p> <p>条例が策定出来たのは会派を超えて団結して進められたからとのこと。</p> <p>条例条文の策定作業には、議会側の「法務担当」の必要性を感じた。</p> <p>条例制定後の取り組みについては、鎌倉市は道路幅が狭いためハード面の整備よりもソフト面での推進が中心になっている。</p>	
内 容	令和元年10月4日(金)
神奈川県座間市「立野台コミュニティセンターについて」	
場所 立野台コミュニティセンター、時間 9:30~11:00、講師 野村委員長	
<p>立野台コミュニティセンターは、座間市にあるコミセンの中で一番最初に作られた。</p> <p>利用者数は月4千人前後で平成30年度に初めて年間5万人を超えた。</p> <p>利用内容は、サークル活動(合唱・体操・ダンス・書道・手芸・空手・料理教室・ゲートボール等)、市・行政関係(市主体の体操教室・社協主催の食事会・長寿会主催の演芸会等)、自治会関係(会議・会合・打ち合わせ等)、コミセン関係(年間10イベントでの会場利用・委員会の会議等)、児童ホーム(併設の待機児童ホームの集団活動や遊び)、個人(大人・子供)などで利用されている。</p> <p>利用満足度は、資料6Pにある通り、満足とやや満足で90%以上の評価が出ている。来館者がコミセン備え付けのアンケート用紙に記入したものを集計している。</p> <p>年間の事業計画は、4つの部会(①自主企画部、②サマコン部会、③祭り部会、④広報部会)で計画され、実施されている。</p> <p>このコミセンは、地域の方が運営管理をしており、管理運営委員会にて職員を1年契約で8名雇用している。委員長の野村氏は8年間ボランティアで務めており、規約には再任を妨げないとあるので、できる限り続けていきたいとの意向。地域の方が管理運営するメリットとしては、地域との協力や連携が取りやすく、地域に根ざした活動ができることと分析。</p> <p>課題については、サークルメンバーの高齢化で解散するサークルがあり、サークル数が減少していること、また塾通いなどで来館する子ども達が少なくなっていることがあるので、新しいサークルを立ち上げることや、子どもに興味を引くイベントを開催する準備をしている。</p>	

内 容 令和元年10月4日(金)

神奈川県座間市「断らない相談について」

場所 座間市役所、時間 13:00～14:30

司会 池邑事務局次長、挨拶 上沢議長、講師 林生活援護課長

「断らない相談支援」がつくる連携のかたち

属性を問わない「断らない相談が」がつくるもの(座間市の考え方)
どんな相談も「断らない」でまずは受け止める。個別の相談支援を通じて、庁内・地域・社会資源が見えてくる。

具体的な実施としては、担当2名による、大枠として「生活困窮者自立支援事業」の中に次の5つの事業を展開する。「自立相談支援事業」「家計改善支援事業」「就労準備支援事業」「子どもの学習・生活支援事業」「住居支援推進事業」「無料職業紹介事業」。

生活保護との連携で相談者が「生活保護」相談以外を希望した場合に情報を共有しながら対応する。連携通知に関係する所属の長を集め、生活困窮者自立支援制度の説明会を実施。

相談者は、一人当たり3.6個の課題を抱えている。

生活困窮者自立支援とは、生活保護になる一步手前の「最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある状態」に介入。そのため、生活困窮の状況・程度は様々。行政制度では対応できないことがある。そこで主体の参画による地域と行政が一体となった取り組み「チーム座間」を結成。社協・NPO法人・ハローワークなど。

「子どもの学習・生活支援事業」では、子ども健全育成支援員の配置(H27年4月～)をし生活困窮世帯の子ども・養育者への子育てに関する寄り添い支援を行う。また、「居場所」「学習支援の場」づくりを座間市社会福祉協議会に委託(平成30年7月～)。

「家計改善支援事業」は、家計収支の均衡がとれていないなど、家計に問題を抱える者に対して、家計観点から継続的・総合的に支援を行うことにより、家計収支を適正化し、生活の再建を図ることを目的とする。H28年7月から社会福祉協議会へ委託、3名の家計改善支援員を手配(生活福祉資金貸付担当と兼務)。

「就労準備支援事業」は、日常生活や社会生活上の自立が不十分であるため、既存の職業紹介や職業訓練、求職者支援制度などの対象とはなりにくい者に対して、集中的・計画的に支援や訓練を行うことにより、就労に必要な基礎能力の形成と就労意欲の喚起を図ることで、一般就労につなげることを目的とする。

地域包括ケアシステム(地域支援事業)との連携

- ①地域支援事業(介護保険課)との連携
- ②リーフレットへ相談窓口の掲載
- ③高齢者虐待防止ネットワーク連絡会での説明
- ④ごまライフポート協議会との関係
- ⑤高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画への明示

属性を問わない「断らない相談」がつくる座間市の考え方は、「自立」を「支援」するだけでは「孤立」は解消しない。「支援」だけではなく「応援」が必要。

会派「フロンティア旭・公明党尾張旭市議団」政務活動行程表

■ 10月3日(木) 神奈川県鎌倉市

時間			移動手段	金額		所要時間	備考
6:50	発	尾張旭駅					尾張旭～大曾根
		↓	名鉄瀬戸線	300円			
7:05	着		(栄町行)		移動	0:15	
7:15	発	大曾根駅			乗換	0:10	大曾根～鎌倉
		↓	J R 中央本線				
7:29	着		(名古屋行)		移動	0:14	
7:39	発	名古屋駅		乗車券	乗換	0:10	(実績) 乗車券: 特急券 11,630円
		↓	J R 新幹線のぞみ294号	6,930円			
9:13	着		(東京行)	特急券・指定席	移動	1:34	
9:21	発	品川駅		4,920円	乗換	0:08	
		↓	J R 横須賀線				
10:08	着		(久里浜行)		移動	0:47	
10:08	発	鎌倉駅			乗換	0:00	
		↓	徒歩(5分)				
					移動	0:05	
10:13	着	鎌倉市役所					
10:30	開始	行政調査	10:30～12:00		滞在	1:30	
12:00	終了						
12:30	発	鎌倉市役所	庁舎見学				
		↓	徒歩(5分)				
12:35	着						
13:46	発	鎌倉駅	昼食(駅前)		昼食	1:11	鎌倉～海老名
		↓	J R 横須賀線	590円			
13:54	着		(成田空港行)		移動	0:08	
14:00	発	大船駅			乗換	0:06	
		↓	J R 東海道本線				
14:11	着		(小田原行)		移動	0:11	
14:18	発	茅ヶ崎駅			乗換	0:07	
		↓	J R 相模線				
14:46	着		(橋本行)		移動	0:28	
14:46	発	海老名駅(相模線)			乗換	0:00	
		↓	徒歩(1分)				
14:47	着	ルートイン海老名駅前	(宿泊先)		移動	0:01	実績
			運賃計①	12,740円			12,520円

宿泊先 ホテルルートイン海老名駅前(神奈川県海老名市扇町14-5 050-5847-7550)

会派名	費用総額(交通費①+②)			
フロンティア旭	議員(1名)	24,360円	×3名=	73,080円
公明党尾張旭市議団	議員(1名)	24,360円	×3名=	73,080円
※フロンティア旭	実績	23,940円	×3名=	71,820円
公明党尾張旭市議団	実績	23,940円	×3名=	71,820円

■ 10月4日（金）神奈川県座間市

時間		移動手段	金額	所要時間	備考
8:30	発	宿泊地			
		↓			
		徒歩（1分）			
8:31	着			移動 0:01	
8:47	発	海老名駅（小田急線）		乗換 0:16	海老名～座間
		↓			
		小田急線 （新宿行）	160円		
8:50	着			移動 0:03	
8:55	発	座間駅		乗換 0:05	
		↓			
		送迎（約25分）			
9:20	着	立野台コミュニティセンター		移動 0:25	
9:30	開始	行政調査	9:30～11:00	滞在 1:30	
11:00	終了				
11:05	発	立野台コミュニティセンター			
		↓			
		送迎（約25分）			
11:30	着			移動 0:25	
12:25	発	座間駅		昼食 0:55	
		↓			
		昼食（駅前）			
		送迎（約25分）			
		↓			
				移動 0:25	
12:50	着	座間市役所			
13:00	開始	行政調査	13:00～14:30		
14:30	終了				
14:40	発	座間市役所			
		↓			
		送迎（約25分）			
15:05	着			移動 0:25	
15:18	発	座間駅		乗換 0:13	座間～大曾根
		↓			
		小田急線 （新宿行）	190円		
15:29	着			移動 0:11	
15:41	発	町田駅		乗換 0:12	
		↓			
		J R 横浜線 （桜木町行）			
16:02	着			移動 0:21	
16:09	発	新横浜駅	乗車券	乗換 0:07	
		↓			
		J R 新幹線のぞみ117号 （広島行）	6,050円		
17:31	着		特急券・指定席	移動 1:22	(実績) 乗車券・ 特急券 10,770円
17:42	発	名古屋駅	4,920円	乗換 0:11	
		↓			
		J R 中央本線 （高蔵寺行）			
17:54	着			移動 0:12	
18:08	発	大曾根駅		乗換 0:14	大曾根～尾張旭
		↓			
		名鉄瀬戸線 （尾張瀬戸行）	300円		
18:26	着	尾張旭駅		移動 0:18	実績
		運賃計②	11,620円		11,420円

領 収 証

領収証番号	01015448850-02-37
通 番	T001-043284
発行日	2019年.9月13日

フロンティア旭 様

下記の金額正に領収いたしました

¥67,200 ※

但し 10月 3日 JR乗車券代金として

ご入金内訳

日 付	種 別	金 額
2019/09/13	現 金	¥67,200
合 計 金 額		¥67,200

店 舗 名	株式会社 JTB 尾張旭イトーヨーカードー店
住 所	〒488-0067 愛知県尾張旭市南原山町石原 116-4
電話番号	TEL: 0561-54-9171

出納責任者	
取 扱 者	



領収個所名、領収者印の無いもの及び金額訂正のものは無効です。

領収書等貼付用紙

領収書

No.000076401 HOST 19/10/03 16:20
[チェックイン]

部屋No.1105

ご利用日 2019/10/03

フロンティア旭 様

ご請求額 24,900円

上記金額を領収致しました

ホテルルートイン海老名駅前

神奈川県海老名市扇町14-5
TEL 060-6847-7660
FAX 046-292-7401

印紙税申告納
付につき品川
税務署承認済

ルートインジャパン株式会社
作成地：東京都品川区大井1-36-3

◆ご利用部屋明細◆

ご請求額 24,900円

室料 24,900円
(内消費税 2,262円)

ご入金額 24,900円(現金)

金額 24,900 円

日付 2019 年 10 月 3 日

《注意事項》

- ①領収書等は、見やすく、かつわかりやすくするため日付順とし、重ならないよう貼付してください。
- ②両面印刷されているものは、裏面も確認できるように上部又は左端のみのりづけしてください。
- ③A4用紙以上のものは、そのまま貼ってください。

政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 4

項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
期間	令和元年 10 月 30 日から 10 月 31 日まで		
研究研修名	第14回 全国市議会議長会研究フォーラムin高知		
場所等	高知県高知市布師田3992-2 (高知ちばさんセンター内)		
参加者	2人 (氏名等) 武田なおき、松原たかし		
研究研修・調査の項目			
10月30日 大会テーマ「議会活性化のための 船中八策」			
第1部 基調講演「現代政治のマトリクス リベラル保守という可能性」			
講演者 中島岳志氏 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授			
第2部 パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」			
第3部 意見交換会			
10月31日			
第4部 課題討論「議会活性化のための船中八策」			
コーディネーター 坪井ゆづる氏 朝日新聞論説委員			
	摘要	金額	備考
経費内訳	交通費(公共交通機関)	63,510 円	1日目 尾張旭{名鉄瀬戸線}300円大曾根(領収書無) 乗車券(名古屋市内~高知往復乗車券)18340円 名古屋~岡山{新幹線}特急料金4610円 岡山~高知{JR特急南風}特急料金1340円 24590円×2=49180円 2日目 高知~岡山{JR特急南風}特急料金1360円 岡山~名古屋{新幹線}特急料金5120円 大曾根{名鉄瀬戸線}300円尾張旭(領収書無) 6780円×2=13560円 振込手数料770円
	宿泊費	26,400 円	13,200円×2人分
	会費(出席者負担金)	14,880 円	7,000×2人分 振込手数料(440円×2)
	計	104,790 円	

《内容及び今後の活用計画を裏面に記載》



内 容
<p>第1部 基調講演「現代政治のマトリクス ―リベラル保守という可能性―」</p> <p>講師の中島岳志氏は戦後の政治のマトリクスについて、自説を述べられた。以下に示す。</p> <p>配分をめぐる軸を縦軸【セーフティネット強化(リスクの社会化)vs自己責任(リスクの個人化)】とし、価値をめぐる軸を横軸【リベラルvsパターナル】として、自民党政権の流れを説明した。</p> <p>田中内閣は「リスクの社会化を推進しつつ保守色を打ち出した」Ⅰ型(保守的で大きな政府)</p> <p>大平内閣は「リスクの社会化を推進しつつリベラル色を打ち出した」Ⅱ型(リベラルで大きな政府)</p> <p>小泉内閣は「リスクの個人化に方向転換してリベラル色を打ち出した」Ⅲ型(リベラルで小さな政府)</p> <p>安倍内閣は「リスクの個人化を推進しつつ保守色を打ち出した」Ⅳ型(保守的で小さな政府)</p> <p>今後の政治のあり方を見定めるためには、極めて有効的であり説得力のある講演内容であった。</p> <p>第2部では、概念的な提案が多く「議会活性化」の必要性を訴えるものの、「地方議員の資質が問題となる議会不信」に対する有効な手立てについて有効な解決策が見出されていない。</p> <p>その結果、低投票率による議会選挙が続いている現状に、危機感をもって取り組んでいる事例は見られなかった。</p> <p>第3部 本市議員が10月に行政調査を行った、鎌倉市議会議長、過去に行政調査に訪れたいなべ市議会議員、開催市である高知市議会議員とテーマについて意見交換を行った。</p> <p>第4部 参考となった事例については、活用計画の項で述べる。</p>
<p>今後の活用計画</p> <p>結論から言えば、議会改革の方法についてはそれぞれの議会の置かれている立場や、過去からの問題を踏まえた上での、現状認識をしっかりと行って、議会全体の共通理解ができてこそ、議会改革を推進していけると思う。</p> <p>その観点から見た本市議会の議会改革は、順調に進んでいると思われる。</p> <p>その理由①議会基本条例の策定方法が現状のある姿を形にしたものである。従って多くの市町村議会では見直し時期を含めた条項があるが、本市の基本条例は付け加えや修正を基本としているので、常に見直し可能である。</p> <p>理由②研修会・委員会視察・会派及び個人による行政視察の結果を議会活動に結び付けるように議会運営が行われている。特に今期は新人議員研修が充実している。</p> <p>今回の議長会研究フォーラムに参加して、特に印象に残った事例は鎌倉市議会の「女性議員の現状の視点」であった。女性議員が議員活動がしやすい環境整備にむけて以下の3点があった。</p> <p>①出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方の明示</p> <p>②この看護休暇に関する規定の整備</p> <p>③配偶者出産休暇の取得</p> <p>女性議員が2人となってしまった本市議会としては、この事例に限らず、働き方改革を念頭に議会改革にまい進していきたいと思われた2日間であった。</p>

領収書等貼付用紙

(お客様片)

№A 073995

領 収 書

フロンティア旭 様

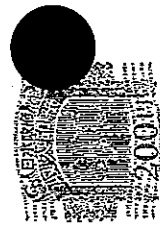
金額	8	7	9	4	0	円
----	---	---	---	---	---	---

ただし 旅費及び宿泊費として
(11/27付お振込分)

種 別	金 種
現金	振込
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
カード	

上記の金額正に領収しました

令和元年12月4日



名鉄観光バス株式会社

名古屋市中区錦町三丁目6番34号

名鉄神宮前駅西77-8階

発行部署 春日井支店

(0568)83-7111

担当者印



社印・担当者印のないもの、及び、複写記入でないものは無効とします

金額 87,940 円

日付 令和元年 12 月 4 日

内訳 交通費 61540円

(名鉄瀬戸線利用分を除く)

宿泊費 26400円

《注意事項》

- ①領収書等は、見やすく、かつわかりやすくするため日付順とし、重ならないよう貼付してください。
- ②両面印刷されているものは、裏面も確認できるように上部又は左端のみのりづけしてください。
- ③A4用紙以上のものは、そのまま貼ってください。

貯金払戻請求書・貯金口座振替による振込受付書(兼手数料受取書) (R1年11月27日)

JAバンクをご利用いただきありがとうございます。

三菱UFJ	信用金庫 信用組合 信用協同組合	すずかぜ支店(所)
貯金種目	口座番号	
1:普通 2:当座 4:貯蓄 9:その他	1434300	
お振込元	フリガナ(マイレ) カンパニ カブシキガイシャ	
お振込先	名鉄観光バス株式会社 様	
お振込先	フリガナ(マイレ) エイムカドウ タクツウクニケイリテン	
お振込先	70ンテイア旭政務活動代表春口武司様	
お振込先	〒488-0077 (0561) 56-7652	
お振込先	尾張旭市新居野西番 3095	

金額 十位 百万 千 円
¥87,940

設定日・指定日

手数料徴収区分 手数料(税込) ①:即納 2:後納 9:不要

①770

交通費 (62,740 - 1200 (乗車料))
宿費 26,400
= 61,540

87,940

- 振込先金融機関へは、お受取人名のほか貯金種目・口座番号を通知します。お受取人名はカナ文字により送信します。
- 振込依頼書に記載相違等の不備があった場合には、照会等のため振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- 通信機器、回線の障害等や心を得ない等によって振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- ご指定の口座から貯金を払い戻して振り込む場合、その払戻しができないときは振込はできませんのでご注意ください。
- この振込受付書(兼手数料受取書)は、振込ができない場合などに必要となりますので、ご依頼人が大切に保管してください。
- 振込ができない場合は、この手数料のほか、別途手数料がかかる場合がありますのでご了承ください。

取扱店

あいち尾東農業協同組合
尾張旭支店
☎(0561)54-3311

JAバンク

印刷番号ZJS-KW0111 2 3 2018.11 2019.01 +

JAキャッシュサービス

ご利用明細票

毎度ありがとうございます。ご利用明細は下記の通りでございます。どうぞお確かめください。裏面の「ご案内」もあわせてご確認ください。

取引金融機関・店	取扱金融機関・店	機番	通番
	6466503	60	0123
取扱日	口座番号等		
01-10-18			
お取引内容	お振込み		
手数料	お取引金額	¥7,000	
お引当	お取引後残高	¥2,560	
時刻	15:14		
お支払可能残高			

みずほ銀行
十四号支店
普通

0660182

か) JTB様 ※個人登録必須要あり

522-1 タケタナオキ様

※印線線線線線線

09026821931

*印線線線線線線線

01年10月21日扱い

JAバンク

JAキャッシュサービス

ご利用明細票

毎度ありがとうございます。ご利用明細は下記の通りでございます。どうぞお確かめください。裏面の「ご案内」もあわせてご確認ください。

取引金融機関・店	取扱金融機関・店	機番	通番
	6466503	60	0125
取扱日	口座番号等		
01-10-18			
お取引内容	お振込み		
手数料	お取引金額	¥7,000	
お引当	お取引後残高	¥2,560	
時刻	15:17		
お支払可能残高			

みずほ銀行
十四号支店
普通

0660182

か) JTB様 ※個人登録必須要あり

522-2 マツハラタカシ様

※印線線線線線線線

09026821931

*印線線線線線線線

01年10月21日扱い

JAバンク

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和元年 11 月 11 日

フロンティア旭 武田なおき 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 野 虎雄

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として

令和元年10月30日・31日開催（高知市）

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和元年11月11日

フロンティア旭 松原たかし 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 野 原 哲 雄

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として

令和元年10月30日・31日開催（高知市）